

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
100	拓殖大学	スペイン語史概論 I	廣澤 明彦 外国語学部 教授	2	前期	火	13	13:50~15:35	拓殖大学 八王子国際キャンパス	5

【授業の目的及び到達目標】

この授業では Samuel Gili Gaya(1966)著 “Nociones de Gramática histórica española” の第4章 “Fonética descriptiva” から精読していきます。タイトルが示しているように、この文献はスペイン語の歴史文法を扱っています。第4章で音声に関する基本事項を確認した後、第5章 “Fonética histórica” へと続きます。以下の授業計画に基づき、精読していきます。

【授業内容】

1. スペイン語史概観

この授業の進め方の説明、資料配布、参考文献の入手について、解説。尚フィードバックはブラックボード上で行います。以下同様です。

2. 母音体系

基本的に不変化である多音節語の強勢音節の位置に注目する理由。スペイン語の二重母音の形成。

3. 強勢音節の母音の推移 その1

ラテン語からスペイン語への母音体系の変化。俗ラテン語の強勢の閉母音 i の保持。

4. 強勢音節の母音の推移 その2

俗ラテン語の強勢の閉母音 e の保持、母音分立の場合、二重母音化する場合、など。

5. 語頭の母音の推移 その1

単語における位置により、同じ音声でもその後の変化が大きく異なる場合がある。2週に分けて、その概要を見ていきます。

6. 語頭の母音の推移 その2

単語における位置により、同じ音声でもその後の変化が大きく異なる場合がある。2週に分けて、その概要を見ていきます。

7. 語末の母音の推移 その1

語末に位置する音声も、語頭、語中における場合とは区別しなければなりません。第1週目は俗ラテン語の -i および、-e が脱落する場合と保存される場合について扱います。

8. 語末の母音の推移 その2

語末に位置する音声も、語頭、語中における場合とは区別しなければなりません。第2週目は俗ラテン語の -a および -u がどのように推移したかを扱います。

9. 内部母音の推移

強勢母音に対し直前、あるいは直後という位置の相異により、推移の型が異なります。やや長い箇所を1週で扱います。

10. 母音変異と yod

ラテン語には存在しなかった二重母音の発生、および半子音 yod(ヨッド)の発生とその影響についての項目です。

11. wau

ヨッドほどおなじみではない、同じく半子音要素である wau(ワウ)について考察します。

12. 子音の推移 その1

子音の推移と消失の概要、および語頭の d-, l-, m-, n-, p-, r-, t- の推移について。

13. 子音の推移、母音間の単子音 試験

語頭の f- の消失と保存、LV(Latín Vulgar) g- の保存と推移、s- および s+子音- の推移について。無声閉鎖音 p, t, k が有声化する位置と条件。試験の実施。

※拓殖大学の授業時間は、1時限 105分となっています。

【授業の方法】

予め配布する資料は、授業の前に必ず訳しておいてください。授業では名簿に基づき指名し、学生は訳を発表、解説、その後質疑応答、そして次に当たる学生、といった流れになるかと思えます。

【予習・復習】

受講者はまず、各回の授業の流れを確認してください。そして毎回の授業で担当教員の解説、ヒントをしっかりと聞いたうえで、予習に臨むことを期待しています。文献の訳の発表が中心となりますが、以下で紹介する参考書等からの追加情報などの発表も期待しています。

【成績評価方法】

平常点(10%)、小テスト(30%)、筆記試験(60%)を加味して評価します。平常点は出席状況と授業にきちんと準備して臨んでいるか否かで決定。履修者の状況により、試験の代わりにレポート(60%)を課すか決めます。

【参考書、教材等】

教科書：Samuel Gili Gaya, 1966, “Nociones de Gramática histórica española”, Biblograf

参考書：寺崎英樹, 2011, 『スペイン語史』, 大学書林

※ この授業は、4/18(火)が初回です。